

会報

やまばと

(第60号)

発行
社会福祉法人 浄泉会
やまばと学園
秦野市渋沢2620-2
TEL 0463(87)1188

発行者 西田精吾
編集責任者 西田精吾

印刷(有)タイム21

海外研修報告

やまばと通所センター

課長 工藤 淳

9月5日から19日までの2週間、スウェーデン・デンマークの2ヶ国の福祉の事情について研修をしてまいりました。(公益財団法人社会福祉振興・試験センター主催)

スウェーデンは、「高福祉・高負担」の国として知られている通り、所得税が平均30〜50%で消費税が25%と税率が高く医療や福祉・教育に充てられています。医療に関しては、ほぼ負担なし。福祉に関してもほぼ負担なし。教育に関してても大学まで基本無償となっています。スウェーデンの福祉が大きく変化したのは、1994年に施行されたLSS法という法律で「援護」から「権利の達成」へ(援護するという性格が強かった支援のあり方を機能障害を持つ人の得ることができる権利を保障しそれを支援する考え)

「機能的な障害を持つ人」という表現を用いて対象範囲の拡大。特別病院や入所施設の解体。

パーソナルアシスタント制度の導入が主な特徴となっています。障害を有する人々が普通の人と同

じような生活ができるように環境を整える事を行政は最優先させなければならず、また住居・就労の他、余暇活動・文化活動においても差別なく生活条件の平等化と社会への完全参加を促進する事が目的となっています。

入所施設の解体へは、障害の有無に関わらず、誰もが自分の住居を持ち、日中活動の場を確保し、余暇活動を楽しむなど他の人々と同様に生活条件を得る権利を持っている。つまり、誰しも意図的に特別な環境下におかれてはならない。目に見えない状態から見える状態へ、隔離された状態から社会の一員として、機能的な状態から変化ある状態へ、集中管理状態から地域で役割が持てる状態へ、保護的から社会的へ、不平等な状態から本人の意思の尊重へなどといった考え方から至ったものであります。

続いてパーソナルアシスタントについてですが支援員とは異なり支援員は利用する人の生活を支援する事ですが、パーソナルアシスタントはあくまでも個人の出来な

いこと、苦手なことを手伝うというのが趣旨となります。何をするかは利用者の要望によります。パーソナルアシスタントの利用で障害に係りなく同等の生活や余暇を送れるようになります。

ここまでの報告は一部ですが、今回の研修では、現状の日本の福祉とのギャップに驚くばかりでした。福祉への考え方、税金、行政、国の方針(補助)、等々と違う面は多いですが、自分自身が今、出来る事から始めて行き、今回の研修内容を現場の職員に伝えて行きたいと思っております。

長い研修期間で1番に残った言葉として「障害者が現在あるサービス・施設に合わせるのではなくサービス・施設が障害者に合わせるもの。」人権・自己決定を考えるとあたり前の言葉と感じました。

最後になりましたが今回、海外派遣研修に参加させていただき本当に有り難うございます。



グループホーム

家族代表 高橋 登美雄

今春、社会福祉法人浄泉会は、グループホームのピジョンハウスの移設とやまばとハウスの増設がありました。この大事業を成し遂げるために、理事長はじめ職員の方々の並々ならぬご苦労があったこととおもいます。

日本の福祉行政は措置から自立支援、総合支援と移り変わりましたが、これは国の財政と同時にノーマライゼーションの理念に基づいて障害のある人も地域社会の中で生活することを目指しているのだと思います。

わが子の紀子は、やまばと学園開設以来20数年間、暖かいご支援のもとで暮らしていましたが、今年の5月より学園の推薦もあり移設後の新ピジョンハウスに移り、女性4名で新生活をスタートしました。月々金は、やまばと通所センターに通っています。

早く新しい環境に慣れるよう職員の方々が献身的に支援して下さいるのでストレスが少ないようで安堵しております。今後ともよろしくお願い致します。

手打ちそば

去る8月4日に秦野市渋沢にある『手打ちそば くりはら』の方々が、やまばと学園にそば打ちの披露・食事の提供で来園して下さいました。午前中、食堂で手打ちそばの実演が始まると利用者の方々は真剣な表情で見てる方、早く食べたいそうにニコニコと笑顔で見ている方等、皆さん様々な表情で見入られておりました。昼食では打ちたての、そばが提供され普段のそばとは、また違う食感や美味しさを味わいました。利用者の方々からは大好評でした。次はいつ?と早々に確認されて来られる方もおりました。本当に有り難うございました。



本格的な手打ちそばでした!!

やまばと運動会

支援課 五嶋 彩耶香

6月17日、快晴の天候の中、やまばと学園の運動会が開催されました。競技では、玉入れやおやつレースなど運動会には、なくてはならない競技・新しく取り入れた競技を利用者様とご家族、そして職員、ボランティアの方々と全員で楽しんで行なう事が出来ました。利用者の方々は、ご家族との再会や運動会という大きなイベントという事もあり、一人ひとりの笑顔がとても輝いていらつしやたのがとても印象的でした。

私自身も入職して初めての大きい行事という事で、とても不安なところがありましたが他職員との協力で無事に成功する事が出来ました。運動会を通して、また一歩、利用者様との距離が近づけて自信に繋がりました。

これからも利用者様との距離をさらに近づけ、信頼関係を築いて行くために日々の支援に取り組んでいきたいと思えます。



ふくろうつ&みみずく班

支援課 山口 隼人

9月25日にふくろう・みみずく班による合同食事をを行いました。職員・利用者様・ご家族合わせて17名参加され、秦野市の「不一家レストラン」へ行きました。不一家レストランにはハンバーグ、スパゲティ、ポテトなどの定番のメニューがあり、利用者様に食べたいものを選んでいただくと、とても美味しそうに召し上がられておりました。デザートには、4種類のパフェ(マンゴー・コーヒートチョコバナナ・あんみつ)の中から一つ選んでいただき、一同満足の食事会になったのではないかと思います。おやつの際に合わせて不一家を後にし、戸川公園の駐車場でシュークリームとドリンクを召し上がり、帰園する前に秦野市内をドライブしてから学園に帰園されております。帰園してからカメラで撮った画像を見ても皆様笑顔でとても楽しかったことが伝わりました。これからも利用者様だけでなく、職員・ご家族が一緒になって楽しめる企画作りをしていきたいです。

ひばり班外出
支援課 和田 洋子

晴天白日の9月30日に愛川町にある服部牧場を訪れました。途中で昼食を済ませ一路牧場へ。車窓からの景色は最高で左側には宮ヶ瀬ダムを見下ろし右側には秋を思わせるススキや農家の柿等を目にしながらのゆっくりのドライブを堪能。現地では心地よい爽やかな風をいっぱい吸いながらのアイスクリームの味は格別だった様でした。何人かの方は降車し牛達をバツクに写真撮影。その後は広い敷地を3台の車が連なり低速で一周。まるでサファリーパークにでも来ている雰囲気でした。

皆さんは車窓から縞馬・ロバ・兎・羊等に目を奪われていました。喜びは一入だったと思います。普段からあまり笑顔を見せないと言う一階のご利用者さんは何度も声を出し私達を和ませて下さいました。また、お友達の中には往路の車内で「綺麗だね!」の連発。「何が?」「道が!」「湖じゃないの?」「うん!綺麗」そんな職員との会話が続いた初秋の一日でした。

秋祭り
支援課 工藤 紀子

9月12日に秋祭りが開催されました。前日まで台風の影響で天候が悪く、当日も心配しましたが、台風は過ぎ去り天候にも恵まれ盛大に行なう事が出来ました。例年通り、模擬店や盆踊り、お楽しみ抽選会があり皆さん楽しんでいらつしやいました。

今年度は光明学園相模原高等学校和太鼓部の皆さんが来て下さり、祭りの最後に花を添えて下さいました。全国大会に出場しているだけあり、会場全体が一体となり聞き入るほど素晴らしい演奏を披露して下さいました。



毎年、盆踊りにご協力して下さいます。皆様、準備や模擬店のお手伝いをして下さったボランティアの方々始め、地域の皆様のご協力により楽しい秋祭りとなりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

通所コーナー
支援課 鈴木 滋

やまばと通所センターでは例年様々なバザーに作品を出品させて頂いてますが、今年もチューリップ祭り、学園の秋祭り、たばこ祭り、西中、福祉展等のバザーに出店させて頂いたいただき、売り上げを頂いております。

また市内のともしびショップのゆめ散歩さんからは、福祉展、人權週間、クリスマスなどのイベントなどの為に石鹸やクリップなど百個単位での作品のご注文を頂き、利用者様と共に日々の作業時間の中で楽しく作品を制作させて頂いてます。こうした社会参加が利用者の皆様の日々の充実や生きがいにも繋がっています。



秋祭りでも沢山売り上げがありました

秦野市防災訓練

9月6日に秦野市総合防災訓練が各地区でありました。浄泉会としては、やまばと学園の峠地区を始めグループホームの各地区で参加しました。浄泉会としても毎年、必ず参加し地域との連携を図る機会を持っています。全地区での参加者は毎年増加しており、防災への意識への高さが感じられました。浄泉会としても常に防災への意識を高く持ち続けて行きます。

人事異動

- 入職された方
 - 入所支援課 板坂 清さん (6月16日付)
 - 鈴木 貴子さん
 - 武藤 恵さん (9月1日付)
- 地域支援課
 - 横山 和子さん
 - 横山由希子さん
 - 石黒亜希子さん (6月20日付)
- 通所支援課
 - 菊川 文明さん (8月1日付)
 - 山口 聖子さん
- 調理員

編集後記

会報『やまばと 60号』はいかがでしたか。暑かった夏場が嘘のように気温も低くなってきました。皆様、健康にはお気をつけ下さい。さて私は9月に海外研修へ行かせていただきました。とても身になる研修期間でした。下記に写真を掲載させていただきます。

(工藤)



- 退職された方 (9月3日付)
 - 入所支援課 野口 健治さん (9月15日付)
- 入所支援課 岩崎 祐治さん (9月30日付)
- 調理員 大鐘 容子さん (9月30日付)
- 異動
 - 総務課 地域支援課 関野 美希さん (6月16日付)
 - 入所支援課 総務課 物江 梨恵さん (10月1日付)



フィンランドの風景(乗客船より)

社会福祉法人浄泉会

やまばと学園後援会

法人設立の趣旨をより効果的に実現する為に、社会福祉活動を支援しようとするものです。障害者の皆様が快適で安心して安全で楽しくアットホームで満足できる生活を送れるよう支援しています。

- 法人会員 年額1口 20,000円
 - 個人会員 年額1口 10,000円
 - 賛助会員 年額1口 3,000円
- 会員には会報「やまばと」が郵送されます。

振込みは郵便為替で(手数料は本会負担) どの郵便局でも00220-5-14491です 口座名は 浄泉会やまばと学園後援会 新しく会員になられる方はご住所を電話等でお知らせ頂くようお願い致します

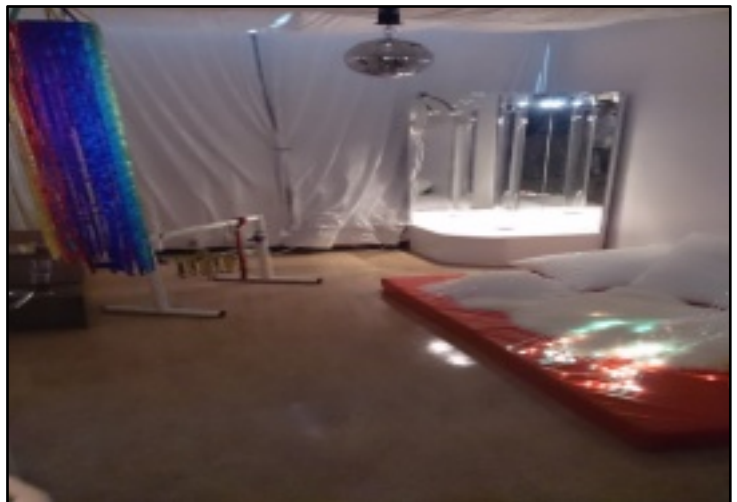
やまばと学園内 後援会係担当
〒259-1322 神奈川県秦野市渋沢 2620-2
Tel 0463-87-1188 Fax 0463-87-6876

浄泉会やまばと学園後援会の会員・賛助会員を募集しています

やまばと学園

ホームページ
<http://www.kanagawa-id.org/yamabato/>

メールアドレス
yamabato@galaxy.ocn.ne.jp



スエーデンのある施設のスヌーズレンのお部屋